

関東大会における給水のためのタイムアウト（給水タイム）について

関東高体連バレーボール専門部

本大会においては、選手の熱中症予防、健康管理の観点から「給水のためのタイムアウト」（以下、「給水タイム」とする）を採用します。以下に示すよう取り扱いますので、チームスタッフ、選手、レフェリーの皆さんは熟知されるようお願いいたします。

【手順】

1. 各セットにおいて、リードするチームが13点目に達したとき、30秒間の給水タイムを自動的に適用する。最終セット（第3セット）は、チェンジコートをしたあとに適用する。また、両チームの得点が30:30となった場合は、2回目の給水タイムを実施する。
2. タイムアウトと同様に、セカンドレフェリーが吹笛をして給水タイムに入る。30秒後に給水タイムの終了をセカンドレフェリーが吹笛する（吹笛まで、選手はコート内に入ることはできない。）。
3. 給水タイムは、正規の試合中断の要求（タイムアウト、選手交代）やリベロリプレイメントより優先される。上記を行う場合は給水タイム終了後にその手続きを行う。
4. 選手はウォームアップエリア付近またはウォームアップエリア内で給水を行う。
5. 給水タイムは給水だけを目的としたものなので、選手（生徒のマネージャーも含む）だけで実施される。
6. 給水タイムの間、コートワイピングは認められる。フリーゾーンを使用したウォームアップは認められない。
7. ベンチスタッフ（生徒を除く）は、選手との会話は認められない（監督は立ったままでもかまわない。）。
8. タイミングが遅れた場合は、確認できた時点で給水タイムを適用する。

セカンドレフェリーの動き

1. 給水タイム中は、ベンチスタッフが選手を呼んで話をしたり、選手の集団に近寄ってコーチングしたりしないよう、ベンチコントロールをする。
2. 最終セットは、13点でチェンジコートをした後に引き続き、給水タイムとなる。その際、ファーストレフェリー側を通過してコートを移動したチームがベンチ側のサイドラインを通過した時点で、セカンドレフェリーが吹笛し計時を始める。給水タイム終了後、通常の確認（リベロ、ローテーション）を行ってから試合を再開する。